

# Q-zaemon Ave. 35

花を支える枝、  
枝を支える幹、幹を支える根、  
根はみえねえんだな。

比叡山 中山玄晋

いきいき わくわく きらきら  
三和銀行 西谷和浩  
秋の夜の 良き音楽と 旨し酒  
島田佐知子

上町台地の名水  
一円、五円の協力で  
カンボジアに井戸を  
贈りました。

おのこわれ  
意気の子 名の子  
詩の子 恋の子  
ああもだえの子

一金 壹百萬円也  
カンゲキしてます。

（株）花熊

山本良一

「鉄幹より」  
笹原ブロック工業（株） 笹原宣彦

女は度胸

ステーキはオクソン  
NHK 植村 脩

Gute Küche, Gutes Weins,  
Vielen Dank!  
大阪ユネスコ協会会長 山口

# 35 Q-zaemon Ave. 35

商人と一口にいうが、  
江戸の元禄時代にはすで  
にいくつかの業種に分類  
されている。問屋、仲買、  
小売の三分類の中で、問  
屋でも幕藩の御用を勤め  
るのが御用商人と呼ばれ  
投機的取引の商人もあり、  
物流に従事する商人（車  
馬）もあった。そして、い  
ずれの商人も成功をおさ  
めるためには「才覚」がな  
くてはいけないとされた。  
才覚とはなにか。知恵で  
ある。現代における企画  
力である。他人の考えな  
い商いの工夫を見つけた  
者が勝者となる。博奕に  
勝って儲けたり、詐欺と  
か入聲による栄耀は一切  
認められないのが原則で  
あり、商人の心得として  
は、我が尊敬する元禄期  
の流行作家、井原西鶴先  
生の作品「日本永代蔵」の  
一節を借りれば、一商売

にも油断なく、弁舌手だれ  
知恵才覚、算用たけて、  
わる銀をつかまず。又、  
油断ハ煙ノ如シともいつ  
ている。ほんの隙間から  
忍び込んでくるものだと  
いう。そして、一旦地道  
な商いの道に踏み込んだ  
なら、たとえ日銭が薄く



ても堅実な道を歩むよう  
に心がけよ、と繰り返して  
商人たちにいい聞かせ  
ている。他からの旨い話  
には目もくれるなど忠告  
を重ねている。たとえば、  
米、大豆、小豆等の相場  
高い、見込み高いには絶  
対に乗るなという。たし  
かに、これらの高いは才

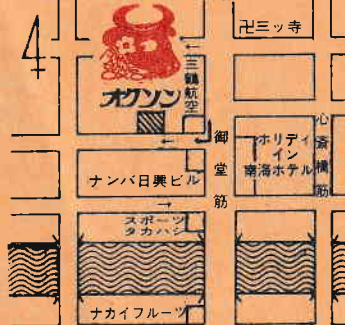
覚の振るいどころかもし  
れないが十分の九は危険  
が伴い、永続的な店の繁  
栄は望み難いという。  
商人精神には二種があ  
り、自らに課す受身三要  
素と外に向って發揮する  
能動（行動・攻撃）三要  
素があるとしている。受  
身三要素は「忍耐」「勤勉」  
「節約」。能動三要素は「算  
用」「才覚」「始末」。この六  
つの要素が自らにそなわ  
った場合に、ようやく商  
人道の入口に立ったとい  
われた。どれひとつとし  
て欠けてはいけないのだ。  
「節約」と「始末」は似  
ているようで違うのであ  
る。節約はセーブであり、  
始末はサーカムスタンス  
である。現代の経営者は  
これを混同して用いてい  
るが、江戸時代ではすで  
にきつちりと区分してい  
たことになる。節約は無

オクソン倶楽部への  
おたより  
音楽鑑賞などとは縁遠  
い私であります。西垣  
さんのギター演奏には、  
魅了されるものがあり感  
動いたしました。コロソ  
ブスの話題をギター演奏  
にのせての発想にも驚か  
されましたし、またギタ  
ーそのものが二〇〇年も  
経っている名器であるとい  
うことなども、軽妙な  
語り口の中で知らされ、  
プロの厳しさや、ひたむ  
きさを感じました。

「恐竜は人類の郷愁で  
あり憧憬である。」という  
発想のもとに一〇年ちか  
く恐竜モデルづくりをし  
て参りまして、只今恐竜  
パークづくりの夢に参画  
し、それに熱中していま  
す。

西垣さんのギター演奏  
に触発され、オクソンさ  
んの料理づくりへの冒険  
心に共鳴させられたまま  
ペンを走らせました。西  
垣さんのギター演奏のこ  
とを意識の中に囲ってお  
きまして、いつか邂逅で  
きればと思っています。

オクソンのオリジナル  
料理への挑戦にご期待申  
し上げ乍ら、先日のお礼  
まで。



**Steak & Wine**  
**オクソン**  
☎ (06)211-9898

営業時間 ランチ 11:30~14:00  
ディナー 17:00~23:00

定休日 日曜、祭日

発行所 「大阪市中央区西心斎橋  
2丁目3-9」

編集責任者 尾形 貴志

店主 山口

## 編集後記

オクソン倶楽部を季刊誌  
として発刊して五年目に入  
りました。当初は不慣れさ  
から編集締め切りが近づく  
と心を痛める日々でしたが、  
近頃は季刊誌作りに喜びを  
感じるゆとりを少し持てる  
様になりました。これは、  
ひとえに快く寄稿してく  
下さるオクソンのお客様方  
のおかげであると深く感謝致  
しております。今回寄稿し  
て頂いた藤本義一先生のサ  
イン「人生は愛を刻む旅な  
り」という言葉を目標に、  
今年も愛を持って仕事に、  
のぞみたいと思います。